

## 【山陰インバウンドニュース3月号】

令和4年3月30日  
 (一社)山陰インバウンド機構

### 山陰インバウンド機構「令和4年度の事業方針」について

全国的にコロナ感染状況は改善傾向が見られるものの、依然として観光産業にとっては厳しい状況が続いています。当機構ではインバウンド市場再開を見据え、この度、新年度の事業計画方針を策定しました。

新年度においても、継続して地域の消費を喚起するような取組を進めていくこととしておりますので、当機構の事業へのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 令和4年度事業方針



##### 事業展開・課題の整理

	ミッション	重点課題	令和4年度事業
周遊	中国5県の市場開発 ※ゲートウェイ戦略の推進 (=誘客多角化)	<input type="checkbox"/> Discover Another Japan Pass (「DAJP」)の強化 ・コンテンツの開発 ・認知度向上 ・運営体制の構築 <input type="checkbox"/> 観光案内所間の連携 ・広域の案内機能の整備	<input type="checkbox"/> 周遊促進事業補助金 ・山陰地域のコンテンツ訴求力調査 ・マーケットイン型コンテンツによる観光消費額の拡大 <input type="checkbox"/> 専門人材登用 <input type="checkbox"/> 自主事業 ・観光案内所ネットワークによる広域誘客 ・「DAJP」活用周遊促進 ・ゲートウェイからの誘客強化
滞在	山陰への誘客強化	<input type="checkbox"/> お勧めルートの商品化 ・「DAJP」+【交通コンテンツ】の開発 ・(着地型)プライベートグループツアーの企画・開発 <input type="checkbox"/> 「ショーケース」の魅力度向上 ・国別のプロモーション	<input type="checkbox"/> 周遊促進事業補助金 ・マーケットイン型コンテンツによる観光消費額の拡大 ・ショーケース魅力度向上 <input type="checkbox"/> 自主事業 ・JNTOと連携したプロモーション
消費	山陰の経済活性化	<input type="checkbox"/> 「重点エリア」の底上げ ・コーディネート機能の強化 <input type="checkbox"/> 旅館、ホテルの拠点化 ・+周辺コンテンツによる価値向上 <input type="checkbox"/> ツーリズム人材の育成 ・スタートアップ支援	<input type="checkbox"/> 周遊促進事業補助金 ・観光商品開発マニュアルを活用した地域プラットフォーム支援 ・旅館・ホテルと連携した新たな販売ネットワーク構築及びインバウンド対応力強化 ・プラットフォーム型スクールによる観光人材創出・支援

### 「鳥取県の路線バスを使って地域を盛り上げたい！」 ～鳥取県の高校生が在学中に地域交通と観光をテーマに研究～

「鳥取県内の路線バスのルートを繋いで、ダイヤの一部を統合すれば、両県を横断する新路線が完成する。停留所の数は日本最多となり、観光資源になる」。高校在学中に地域交通と観光をテーマに考察した亀井俊佑さんが、中高生の国際アイデアコンテスト「Global Link Online 2021」に参加し、その考察結果を発表しました。

亀井さんは、路線バスとしては日本一長い奈良交通の「八木新宮特急バス」(約170キロ)に着目。鳥取～倉吉～米子を結ぶ「鳥取県横断長距離バス」がつかれないかと考え、県立倉吉東高校2年次に県内の地域交通をテーマに選定。2021年3月に開催された「第6回高校生国際シンポジウム」でグランプリ(最優秀賞)を受賞しました。さらに、2021年8月に開催された国際アイデアコンテスト「Global Link Online 2021」に招待者として参加。同コンテストの審査員を務めた山陰インバウンドアドバイザーのデニス氏の紹介で、今回、亀井さんからお話を伺うことができました。

亀井さん曰く「地域の公共交通機関を取り巻く環境は厳しい。ただ何か工夫すれば面白いことができないか、地域を盛り上げることができないかと思ったことがこのテーマを選んだきっかけです。」

現在の鳥取県のバス路線は東、中、西部の三つの地区ごとに運行されており、空白地帯も存在。そこで、亀井さんは、既存のバス路線の一部のダイヤを組み合わせることで無理なく開設できる方策を検証。その結果、運行本数を維持したまま路線新設する可能性が高いことが分かりました。

「3日間乗り放題の乗車券（1800円）を買えば、路線バスだけで県内のほとんどの観光地をめぐることができます。停留所数200以上となり単一路線では日本一。メディアへのインパクトも大きい」と観光素材としての可能性についても述べました。

最後に、この春に高校を卒業した亀井さんに今後の目標についてお聞きしたところ、「実際に走らせるには費用対効果面での課題を解決していく必要がある。今後は大学でより専門的な調査や分析手法を勉強していきたい。」と今後の抱負を語られました。



研究テーマを披露：3/28 当機構にて



亀井俊佑さん：3/28 当機構にて

【3月23日開催】山陰インバウンドセミナー

## 『Discover Another Japan』～山陰の観光の魅力と今後の可能性～の動画を公開しました

3月23日、オンライン上でインバウンドセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、長年に渡って山陰の観光地を見てきた佐藤 CMO を講師として、『Discover Another Japan』～山陰の魅力と今後の可能性～と題し、講演を行いました。

佐藤氏は、「山陰には隠れた魅力が数多く存在するがその魅力が十分に伝えきれていないことも多い。「そのままでは伝わらないもの」もあると認識し、どう表現して伝えるのか、自分のまちの魅力は何なのか改めて問いかけ、しっかりと外に発信していくことが重要」と説明。また、山陰の魅力を「世界の行き過ぎた資本社会が抱える課題を解決するヒントを示してくれる場所」と述べました。

また、「まち」と「観光」の関係についても説明。「暮らしと観光の乖離」が生じることが少なくないことから、「まち」があつての「観光」という視点が重要だとし、「まちの視点と来訪者の視点でとことんまちのあるべき姿を語る事が重要。その為に、閉塞した地方を活性化させる「風」を吹き込む役割を担う人（移住者など）の役割に注目すべき」と、ワーケーションと観光の可能性についても説明がありました。

セミナーの様子は、機構の公式 YouTube チャンネルで公開していますので、見逃された方は、是非、ご視聴ください。

【機構公式 URL】 <https://www.youtube.com/watch?v=vztlmw94g6F0&t=2834s>

山陰DMO

検索

## 観光関連統計等

山陰への訪日外国人延べ宿泊者数※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への訪日外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2021年12月	1,340人泊（鳥取450人/島根890人）	（2020年12月）1,850人泊 （2019年12月）19,930人泊
日本全体の現状 2021年12月 （速報値）	319,980人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 <a href="https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html">https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html</a>	（2020年12月）550,200人泊 （2019年12月）9,182,820人泊